



化学物質による健康被害の現状と課題

いしづか せつこ
石塚 節子 議員



健康被害が少なくなるよう努力していく



様々な化学物質に反応する化学物質過敏症で、頭痛、倦怠感、筋肉痛、はきけ、喉の痛み、声が出ない、視覚障害、気力が出ないなど、様々な症状がある。周囲に理解されず、苦しい思いをしている人が大勢いる。また、自分にとっては快適な香りでも他の人には苦痛になったり体調を崩したりする化学物質もある。

問 市民への周知、啓発は。

答 この病気についての理解と当事者への配慮を多くの市民に、広報やホームページで周知する。

問 学校で体調不良を訴える状況は。

答 給食用エプロンの匂いに不快さを感じる生徒がいる。化学物質過敏症の症状は様々であり、適切に対応するために教職員が

理解を深めることが重要である。

問 「学校生活管理指導表」の活用について。

答 アレルギー疾患のある児童・生徒が安心安全な学校生活を送るため、毎年、配慮や管理などを希望する保護者に対して、学校生活管理指導表の提出を依頼している。

提出された学校生活管理指導表を基に保護者と面談を行い、具体的な対応などについて保護者とともに確認し、その後全教職員で共有している。



(仮称)「つるの駅」構想及びその周辺整備

うちの内野 嘉広 議員



道の駅以外の選択をしている

これから10年先、20年先も人が集まる場所として、じっくり腰を据えて、地元のために将来的にも長く使えるようないい施設を造っていただきたいということ

問 事業化に向けての現在の状況について。

答 食をテーマとする企業を誘

致することで、活気とにぎわい、そして憩いの場となる拠点の創出を実現するものである。企業の誘致に当たっては、市の考えに理解、同調して事業展開をしたい事業者から提案を受けている。現在は最終的な調整を行っている。

問 市が考えている(仮称)「つるの駅」のイメージは。

答 集客力のある商業施設と併せて、例えば、農産物の直売やカフェレストランなどの飲食ができる機能を持った、そういった形でのにぎわい、憩いの場を整備していきたい。

問 性急に事を運んでいるように感じる。道の駅という要素も検討するなど、じっくりと腰を据えてやるべき事業ではないのか。

答 市としては、地域の特性や状況などを勘案し、スピード感を持って対処する中で、企業誘致を選択した。



(仮称)「つるの駅」構想予定地